

平成16年度第3四半期における運用状況

平成16年度第3四半期(10月～12月)のポートフォリオ別の運用状況

1 被保険者ポートフォリオ

平成16年度第3四半期(10月～12月)における被保険者及び待期者に係る資産の運用状況は、次表のとおり、12月末の時価総額は563億12百万円となり、第3四半期総合収益は+6億98百万円となりました。また、この間の修正総合利回りは+1.37%となっています。

平成16年度通期(4月～12月)の総合収益は、参考のとおり+9億27百万円、修正総合利回りは+1.96%となっています。

(単位:百万円、%)

資産	16年9月末 時価総額	第3四半期保険料・ 国庫補助投下額	計 (+)	16年12月末 時価総額	第3四半期総合収益 -	修正総合 利回り	時価総額 構成割合
国内債券	35,409	1,814	37,223	37,370	147	0.40	66.4
国内株式	7,436	368	7,804	8,155	351	4.57	14.5
外国債券	2,074	185	2,259	2,283	24	1.11	4.1
外国株式	4,484	-31	4,453	4,633	180	4.01	8.2
短期資産	62	3,812	3,874	3,871	-3	-1.43	6.9
合計	49,465	6,149	55,614	56,312	698	1.37	100.0

(注)1. 外国債券・外国株式に係る利金・配当金の受入により発生した為替差損益及び保管手数料等は、「短期資産」欄で整理しています。

2. 単位未満を四捨五入しているため、「合計」欄で合わない場合があります。(以下同じ)

(参考)

平成16年度通期(4月～12月)の運用状況

(単位:百万円、%)

資産	平成15年度末 時価総額	16年度保険料・ 国庫補助投下額	計 (+)	16年12月末 時価総額	16年度総合収益 -	修正総合 利回り	時価総額 構成割合
国内債券	33,240	3,734	36,974	37,370	395	1.17	66.4
国内株式	4,166	4,063	8,229	8,155	-74	-1.01	14.5
外国債券	1,935	194	2,130	2,283	154	8.76	4.1
外国株式	1,555	2,607	4,162	4,633	470	11.07	8.2
短期資産	1,438	2,452	3,890	3,871	-19	-8.86	6.9
合計	42,335	13,051	55,385	56,312	927	1.96	100.0

2 被保険者危険準備金ポートフォリオ

平成16年度第3四半期(10月～12月)における被保険者及び待期者に係る付利準備金及び調整準備金の運用状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:千円、%)

区 分	資 産	16年9月末 時価総額	第3四半期 繰入額	計 (+)	16年12月末 時価総額	第3四半期総合収益 -	修正総合 利 回 り
付利準備金	短期資産	145,500	16	145,516	145,542	26	0.02
調整準備金	短期資産	72,260	-43	72,217	72,230	13	0.02
合 計		217,760	-26	217,734	217,772	38	0.02

3 受給権者ポートフォリオ

平成16年度第3四半期(10月～12月)における受給権者に係る資産の運用状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:千円、%)

資 産	16年9月末 時価総額	第3四半期 繰入額	計 (+)	16年12月末 時価総額	第3四半期総合収益 -	修正総合 利 回 り
国内債券	21,665	3,634	25,299	25,494	196	0.84
短期資産	1,359	503	1,862	1,862	0	0.00
合 計	23,024	4,137	27,160	27,356	196	0.79

4 受給権者危険準備金ポートフォリオ

平成16年度第3四半期(10月～12月)における受給権者に係る調整準備金の運用状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:千円、%)

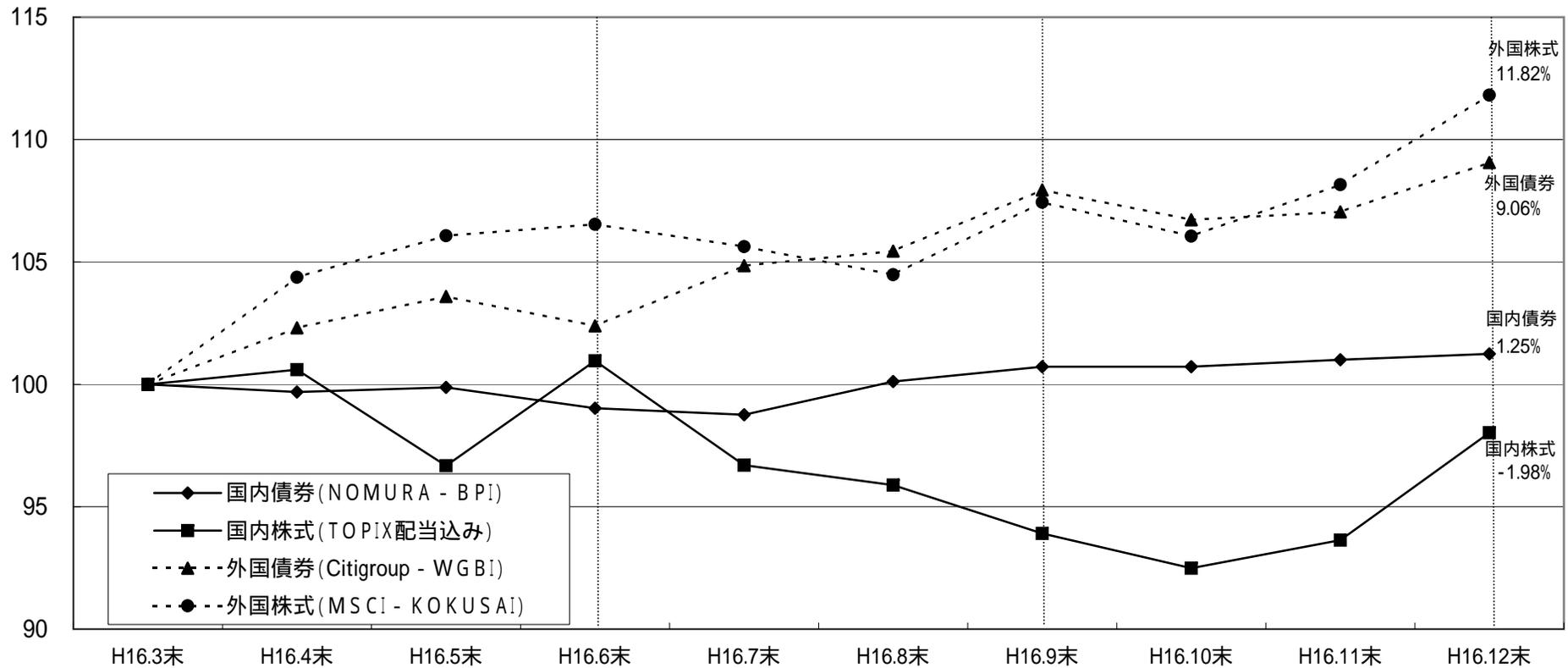
区 分	資 産	16年9月末 時価総額	第3四半期 繰入額	計 (+)	16年12月末 時価総額	第3四半期総合収益 -	修正総合 利 回 り
調整準備金	短期資産	14,620	3,271	17,891	17,891	1	0.00

(参考)

年金資金の運用は、長期的観点から行うべきものであり、その運用状況についても、長期的に判断することが必要ですが、情報公開を徹底する観点から、四半期毎に運用状況を公開するものです。

今回の公開は、平成16年度第3四半期におけるポートフォリオ別の運用状況をお知らせするものであり、今回の運用状況によって付利額が決まるものではありません。

ベンチマーク・インデックスの推移 (H16.3末=100)



ベンチマーク騰落率

	通 期
国内債券 (NOMURA - BPI総合)	1.25%
国内株式 (TOPIX配当込)	-1.98%
外国債券 (Citigroup - WGBI)	9.06%
外国株式 (MSCI - KOKUSAI)	11.82%

運用環境

	平成16年3月末	平成16年6月末	平成16年9月末	平成16年12月末
国内債券 (新発10年国債利回り)	1.435%	1.780%	1.440%	1.435%
(NOMURA - BPI総合)	293.529ポイント	290.657ポイント	295.651ポイント	297.189ポイント
国内株式 (日経225)	11,715.39円	11,858.87円	10,823.57円	11,488.76円
(TOPIX配当込)	1,340.15ポイント	1,353.03ポイント	1,258.51ポイント	1,313.66ポイント
外国債券 (米国10年国債利回り)	3.837%	4.583%	4.123%	4.218%
(Citigroup - WGBI)	254.41ポイント	260.48ポイント	274.61ポイント	277.46ポイント
外国株式 (NYダウ)	10,357.70ドル	10,435.48ドル	10,080.27ドル	10,783.01ドル
(MSCI - KOKUSAI)	973.517ポイント	1,037.156ポイント	1,045.929ポイント	1,088.545ポイント

専門用語の解説

ポートフォリオ

もともとは、折りかばんを意味するものであったが、投資家が保有資産をさまざまな証券(銘柄)で組み合わせて保有していることから転じて、証券分析においては、種々の有価証券を組み合わせたものを意味するものとして使われている。

総合収益

有価証券の売買損益や債券利息、株式配当金といった実現収益だけでなく、未収利息の増減や、評価損益の増減を加味した時価ベースの収益のこと。

修正総合利回り

運用成果を測定する尺度の1つ。

総合収益率は、運用元本を簿価ベースで計算したものであるのに対し、修正総合利回りは、運用元本に時価の概念を加味した収益率のことで、総合収益率より更に時価ベースにした収益率。

算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す際に、時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として、広く普及している。

(計算式)

$$\text{修正総合利回り} = \{ \text{実現収益} + \text{評価損益増減} (\text{当期末評価損益} - \text{前期末評価損益}) + \text{未収収益増減} (\text{当期末未収収益} - \text{前期末未収収益}) \} \\ \div (\text{運用元本平均残高} + \text{前期末評価損益} + \text{前期末未収収益})$$

ベンチマーク

運用成果を評価する際に、相対比較の対象となる基準指標。

運用収益率の絶対値の高低による評価は、投資環境の違いを反映せず、運用期間が異なる場合に、その比較が不可能である。しかし、投資環境を反映する基準指標(TOPIX等)があれば、基準指標に対してどの程度上回る収益率を達成できたかを算出することにより、運用期間の異なるものとの比較が可能。

* NOMURA - BPI総合

野村総合研究所が作成・発表している国内債券市場のベンチマーク。国内債券のベンチマークとしては代表的なものであり、基金もベンチマークとして採用。

* TOPIX(配当込)

東証一部上場全銘柄の株価を株式数で加重平均して算出したもの。国内株式市場の代表的なベンチマークであり、基金もベンチマークとして採用。

* Citigroup - WGBI(除く日本)(ISSB - WGBI)

シティグループが作成・発表している世界国債のベンチマーク。時価総額につき一定基準を満たす世界の国債について、投資収益率を指数化したもの。国際債券投資のベンチマークとしては代表的な存在。基金も外国債券のベンチマークとして採用。

* MSCI - KOKUSAI(配当込)

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社が作成・発表している日本を除く主要国で構成された世界株指数。対象国の包括性、切り口の多様性等の点で、国際株式投資のベンチマークとしては代表的な存在。基金も外国株式のベンチマークとして採用。